

日本とアフリカの若者が目指す初の国際目標 『Youth Agenda 2055: The Future We Want』完成発表

主催: Youth TICAD 2025 実行委員会 / 国連開発計画 (UNDP) / 国際協力機構 (JICA)



2025年7月18日 於 日本記者クラブ

30年の物語 — 若者がアフリカと日本の未来を紡ぐ

1993

1993年、TICADが始まった年。
日本は世界第2位の経済大国。
アフリカの人口は約7億人、
若い大陸の可能性はまだ眠っていた。

2025

30年後の現在、2025年。
日本は少子高齢化が進み、
出生数は過去最低を記録。
人口は減少し、高齢化率は約30%に。
一方アフリカは約15億人、
若者がエネルギーとなり、
文化や経済で世界に影響力を増している。

2055

そして今から30年後の2055年へ
アフリカの人口は25億人に達し、
世界人口の約25%を占める。
その中の70%は30歳以下のユース世代。
日本は人口が約9500万人まで減り、
高齢化率は約40%に。若者の活力が世界
の未来を左右する時代になる。

若者として、過去と向き合い、未来に責任を取ることが出来る私たち。
アフリカと日本の課題と強みは相互補完関係にある。
これからの私たちに必要なのは、一方的な支援ではなく、
互いの強みを活かしながら共に歩む「共創」の関係を築くことではないか。

この30年、私たちが未来を変える主人公だ。

プロジェクト全体像

01

提言書「Youth Agenda 2055: The Future We Want」の策定

- アフリカと日本の若者900名以上が協働し、「自分たちが望む30年後の未来」を若者の視点から描いた提言書「Youth Agenda 2055: The Future We Want」(以下、ユースアジェンダ)を策定
- 策定にあたって、政府・国際機関、市民団体、民間企業など、様々なステークホルダーと対話を実施

02

TICAD 9への参画 Youth TICADの開催

- 描いた30年後の未来を実現するため、アフリカと日本の若者約100名が横浜に集結し、若者同士・世代間の連帯を強め、協働アクションを共創



03

3つの戦略的フレームワークの実施 TICADへの継続参画

- 「TICAD若者諮問委員会」、「TICAD若者基金」、「ユースドライブ(定期会合)」の実施し、日本とアフリカと日本の若者間共創アクションを促進する
- TICADにも継続して若者の声を届け、世代間共創も後押しする

策定フェーズ

~2025

TICAD 9開催

2025 夏

実行フェーズ

~2055

若者が望む未来の実現へ

立ち上げ

2024



これまでの歩み

1

ユースへのアンケート調査（2024年2月～5月）

2

分科会（2024年7～8月）：フューチャーデザイン手法を用いて、Future We Wantの草案を作成

3

第1回ユースドライブ（2024年8月）：TICAD閣僚級会合公式サイドイベントとして、本プロジェクトのキックオフ

4

ユースアジェンダゼロドラフトの公開／関係者対話・ユースへのブリーフィング（2025年1～3月）

5

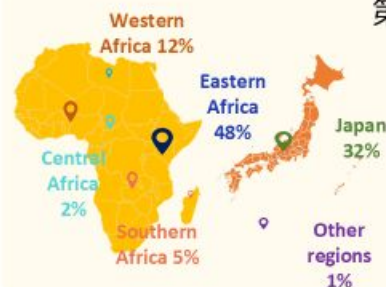
第2回ユースドライブinエチオピア（2024年2月23日～25日）：アフリカ内ステークホルダーと共にゼロドラフトの内容を議論する

6

ユースアジェンダの完成、TICAD共催者会合にてTICAD主催者に手交（2025年3月）

7

ユースTICADの開催（対ユース向け）／TICAD9サイドイベント（対全世代向け）の開催（2025年8月）



337人

回答国

55か国

分科会参加者

日本人：18人

アフリカン：37人

総時間：9人

ユース動員数

Africa Briefing
Online/Nov 2024

85

Youth TICAD Pre Event
Tokyo/ Hybrid/ Feb 2025

約190人

Second Youth Drive
Ethiopia/Feb 2025

約300人

これまでのコンサルテーション歴

- 日本 外務省 中東アフリカ局（2025年1月）
- 日本 経済産業省 通商政策局 中東アフリカ課（2025年1月）
- 経済同友会 アフリカ委員会（2025年1月）
- TICAD NGO連絡会（2025年1月）
- 世界銀行グループ（2025年2月）
- アフリカ連合（AU）（2025年2月）
- …その他多数

Youth Agenda 2055: The Future We Wantについて(1)



01

内容

2055年に日本とアフリカの若者が望む未来像(The Future We Want)と、その未来を実現するために政府・国際機関・企業・市民社会に求める行動を提示。若者は単なる提案者ではなく、変革の主体として提言の実現に責任を持ち、自ら行動する立場をとる。

02

構成

経済・社会・平和と安定の3つの柱と、人と人のつながり・持続可能性の2つのエネーブラーで構成。一般的にTICADで議論されるテーマに加え、若者視点からSRH、メンタルヘルス、キャリア形成、多文化共生、社会的結束などの領域も重視。

03

対象

本取り組みの裨益者はアフリカにとどまらず、日本および世界全体に広がることを想定。共通の課題を解決し、よりよい未来を共に創ることを目的としている。また、TICAD 9をゴールとせず、その後に提言を実行し、実現させることに重きを置く。

Youth Agenda 2055: The Future We Wantについて(2)

柱1 社会

1. イノベーションと協働によるユニバーサルで質が高く、インクルーシブな教育の実現

2. 若者の健康とウェルビーイングの向上 — 医療アクセスの強化、性と生殖の権利の保障、そしてメンタルヘルス支援の充実

柱2 経済

3. 経済の安定と若者のエンパワーメント: 日本とアフリカが共に築く「Win-Win」の未来

4. 若者の起業家精神の育成: 障壁を乗り越え、可能性を解き放つ

柱3 平和とガバナンス

5. 軍縮、対話、若者の力による国際的な平和と安全保障の強化

6. 意思決定の場に若者の声を — 代表性を確保し、積極的な参加を促す

エンネイブラー 1: 人と人との繋がり

7. アフリカ・日本間の留学や語学学習を通じた若者の交流と相互理解の促進

8. 日本・アフリカ・ディアスポラが地域社会でともに生きる社会を築く

9. TICADを活用し、日本とアフリカが協力して持続可能な未来をつくる枠組みを強化する

エンネイブラー 2: サステナビリティ

10. 気候変動と気候正義に、若者同士の連携で包括的に取り組む

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 1.

Issue

1. 教育のアクセス・質格差

日本とサブサハラ・アフリカ間で、教員数・就学率・識字率などに大きな開きがあり、質的・量的に不平等が存在する。

2. 教育の包摂性

女性、障がい者、少数民族、紛争地域や農村部に暮らす若者が教育機会から除外されやすい。

3. 人材流出による地域の成長阻害

アフリカにおいて高等教育のアクセスと質の課題により、優秀な人材が国外流出し、地域の持続的発展やイノベーションが停滞している。

Action

1. 包摂的な教育アクセスの保障

ジェンダーや障がいなど多様なニーズに対応した教育環境を整備し、遠隔学習やインフォーマル教育も含めた柔軟な学びを提供。ボランティアやインターン等の実践的学習も促進する。

2. 教育の質向上とキャリア支援強化

教員の待遇改善やICT活用、地域連携を通じて教育の質を向上。キャリア形成を基準カリキュラムに取り入れ、キャリア支援やメンタリングによって若者の将来設計を支える。

3. 高等教育と知の循環の強化

奨学金や研究環境の充実、産学連携・留学支援を強化。アフリカと日本の高等教育機関が連携し、地域に根ざした知の共創と循環を促す。

すべての若者が質の高い基礎教育を修了し、多様な価値を尊重しながら、共に学び、共に未来を創るチェンジメーカーが育成されている。アフリカと日本の知の共創・環流によって、地域に根ざしたイノベーションが生まれる世界。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 2.

すべての若者が、心身ともに健康で、自分らしく生きるための支援を受けられる社会。保健・医療・性と生殖に関する権利(SRHR)への包括的アクセスが保障された未来。

Issue

1. 保健予算の脆弱性

多くのアフリカ諸国で、保健・栄養・公衆衛生への国家予算が不十分で、持続可能な医療体制が整っていない。

2. 若者が利用しにくい医療・保健サービス

特にアフリカ諸国で医療機関の物理的距離、情報不足、費用負担により、若者にとって身近で信頼できる保健サービスが不足。

3. SRHRとメンタルヘルスの軽視

アフリカ・日本どちらも、若者向けSRHRやメンタルヘルスに関する情報やサービスが十分に整備されておらず、ジェンダーに基づく暴力や、メンタルヘルス課題の対処が不十分。

Action

1. 健康への国家的投資の拡大

アフリカ各国が保健・栄養・公衆衛生への国内予算を増額し、持続可能な医療制度の構築を目指す。

2. ユースフレンドリーな医療アクセスの確保

若者にとって利用しやすい学校や地域の身近な場所、オンライン上で適切な医療サービスにアクセスできるようにし、利用時にはプライバシーの保護を徹底する。

3. SRHRとメンタルヘルスの主流化

学校での包括的性教育の義務化、無料の産前・産後ケア、避妊・生理衛生製品への補助拡充、カウンセリング体制や支援センターの整備を通じ、包括的な健康権を保障。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 3.

すべての若者が安定した雇用と社会保障に支えられ、安心して働き、暮らせる社会。日本とアフリカがお互いの人材・市場を活かし合う、持続可能で互恵的な経済パートナーシップの実現。

Issue

1.日本の若者の経済的重圧

賃金低下、物価上昇、社会保障負担増という「三重苦」により、将来設計が困難に。

2.アフリカにおける若者の質の高い雇用不足

基礎教育就学率は大幅に改善されているが、就業率の低さと非正規雇用の多さが若者の経済的自立を妨げている。

3.雇用・経済の不安定さが社会全体の脆弱性に

若者のメンタルヘルス課題、少子化、格差拡大などにつながり、社会の持続的な発展の阻害となっている。

Action

1.若者中心の産業発展による雇用創出

農業・製造業・グリーンエネルギーなどの分野でAIやICTを活用しながら、若者と共に産業振興を推進。アフリカでは加工産業やインフラ投資を通じて雇用を創出し、産業の近代化と効率化を図る。

2.日アフリカ間のビジネス協働の強化

ビジネスマッチングやスタートアップ支援、法制度整備や物流改善を通じて、日・アフリカ間の経済連携を深化。TICADやビジネス協議会等での成功事例共有や若者起業ハブの設立も促進。

3.安定雇用と社会保障による若者の生活基盤強化

若者の正規雇用への移行支援拡充、企業への若者雇用インセンティブ付与、労働環境改善の権利の徹底、職業訓練の強化、住宅・医療・育児など社会保障の対象拡大で、若者が安心して働ける環境を整える

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 4.

日本とアフリカが互いの経験を活かし、支え合いながらイノベーション創出・課題解決に取り組んでおり、そのポジティブな影響は国境や世代を超えて広がっている。こうした取り組みが次世代の子どもたちに刺激を与え、新たな社会変革の連鎖を生み出している。

Issue

1. 起業への関心と環境のギャップ

日本では若者の77%が起業に関心ないと回答(GEM,2022)。一方、アフリカでは約70%の若者が起業に関心を寄せるが(Africa Youth Report 2024)、制度的障壁が多いとされる。

2. 資金アクセスと社会的支援の不足

日ア双方で資金不足が最大の課題。加えて、日本では「失敗への恐れ」、アフリカでは「政府ガバナンスと規制」や「インフラ整備遅れ」が起業の妨げとなっているとされる。

3. 協働・実験・社会性への支援の弱さ

アフリカ・日本間の共創を支援する仕組みや、社会的インパクト重視の小規模事業への支援が限定的。スケール偏重の支援設計が多い。

Action

1. 起業文化と環境の醸成

失敗を受容し、挑戦を称える文化を育む。若者の創造性を長期的視点で支える制度(メンタリング等)・社会環境(Fintechを活用した低コストでアクセスのよい金融サービスの拡充等)を整備する。

2. 実践的な支援インフラの構築

官民連携により、TICADユース基金の設立や、起業に向けたツール提供・スキル支援を強化する。地方の通信環境整備や公衆Wi-Fiの拡大でデジタル格差を是正する。あわせて、デジタル教育の必修化や職業訓練の強化により、若者のICTスキル習得を支援する。

3. つながりと学びの強化

アフリカ・日本の若者、投資家、専門家のネットワーク形成促進や、共創プログラム・情報プラットフォームを整備すると共に、究・技術開発に必要な信頼性の高いデータの拡充と技術支援も推進する。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 5.

すべての若者が暴力と恐怖から解放され、対話と共生によって平和を築ける世界。大量破壊兵器のない地球と、世代を超えた協調が息づく未来。

Issue

1. アフリカにおける深刻な暴力と避難民の増加

2023年にはサブサハラ・アフリカで3,480万人が紛争により国内避難民に。スーダンやコンゴ民主共和国などで特に深刻。

2. グローバルな軍拡と安全保障リスクの拡大

核・化学・生物兵器に加え、サイバー・宇宙・AIによる新たな脅威が台頭し、包括的な安全保障体制が求められている。

3. 若者の平和構築への関与の不足

若者が平和の担い手として十分に認識されず、意思決定や復興プロセスに十分に関与出来ていない

Action

1. 暴力の即時停止と地域協力の強化

AU・日本・地域経済共同体(REC)の連携により停戦仲介とテロ対策を進め、違法武器取引の規制を徹底する。

2. グローバルな軍縮と新興リスクへの対処

日本の歴史的責任を背景に、核・化学・生物兵器禁止条約の推進を牽引。加えてサイバー・宇宙・AI分野における平和利用の枠組みを構築。

3. YPSの推進と若者の平和参加

Youth, Peace and Security(YPS)アジェンダを主流化し、若者を紛争予防・平和構築・復興の主体として制度的に位置づける。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 6.

全ての若者が「自分の声が社会に届き、社会を変える力がある」と信じ、自らの手で社会と未来を形づくることのできる世界。政策決定が公平・包摂的・未来志向となり、若者の視点が反映される仕組みが整っている。

Issue

1. 若者の政治的代表性の欠如

日本では国会議員のうち40歳未満は7.7%、アフリカでも多くの国で10～30%程度と低く(IPU,2024)、アフリカ、更に日本共に30歳未満の代表はゼロにちかい。

2. 若者の政治参加意識に地域差

アフリカでは63%が政治への影響力を信じる一方(Africa Youth Report 2024)、日本では18歳未満の半数以上が社会変革のための政治参加意識に懐疑的(日本財団 2024)。

3. 国際会議での若者参画

TICADの公式セッションには、これまで若者が制度的に参加した実績がなく、政策形成の場から疎外されている。

Action

1. 若者を政策形成の主流へ

政策・プログラムの立案、実施、評価のすべての段階に若者の視点を反映させることを制度化する。手始めとして、TICADで決定された施策にこの仕組みを導入する。

2. 意思決定空間への若者参加の保証と能力強化

意思決定空間に若者を登用するため、クォータ制や若手政治リーダーへの財政支援やスキル支援等のアフーマティブアクションを拡大させる。あわせて模擬選挙・国連をカリキュラムに導入させることや、インターンシップなどを通じ、若者リーダーシップ育成も進める。

3. TICAD若者諮問委員会の設立

TICADユース諮問委員会を設置し、公式セッションでの参加・政策提案・実施モニタリングを担う。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 7.

アフリカと日本の若者が、言語や距離を越えて自由に行き来し、共に学び合い、未来を共創できる世界。人的交流を通じた相互理解と連帯感が育まれる持続的な関係性を築いている。

Issue

1. 交流機会の地域格差と低水準

日本に来ているアフリカ出身の留学生は全体のわずか0.8%（およそ2,700人）。フランス10万人、中国5万人に比べ圧倒的に少ない。また日本からアフリカへの留学はまだ実績もプログラムも少ない。

2. 言語と制度の壁

日本では英語対応プログラムが少なく、日本語教育インフラもアフリカ側に乏しい。また、日本⇄アフリカ間の留学のための奨学金や制度的支援も十分とはいえない。

Action

1. 交流プログラムの拡充、実践的人材育成の強化

ABEイニシアティブやMEXTの「トビタテ！留学JAPAN」など既存プログラムを継続・拡充し、高校・大学、企業・自治体間へ対象を広げ短・中期交流を促進。また、高専・専門学校のアフリカ人材受け入れ枠も拡大し、奨学金充実や入試要件の柔軟化、オンライン説明会增加を図ることで日本⇄アフリカ間の留学生数を増加させる。

2. 双方向的な言語・文化教育の推進

アフリカでの日本語、日本でのスワヒリ語などの第二外国語教育を拡充し、教師育成制度拡充やボランティア派遣を強化。オンライン学習プラットフォーム（例：Duolingo）を利用料や、言語学習を希望する学生・従業員への補助金を提供。

3. 物理的障壁の緩和

アディスアベバ―日本間の直行便導入で物理的距離の壁を解消。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 8.

アフリカ・日本・ディアスポラの若者たちが、互いの文化を正しく理解し合い、共に暮らし、共に創る、包摂的で持続可能な社会。

Issue

1.メディア報道による誤解とステレオタイプ

日本とアフリカの若者は、自国や相手国のメディアによる不正確な報道やステレオタイプな表現に不満を抱いており、アフリカや日本の本来の文化や社会の姿が十分に伝わっていないと感じている。

2.在留外国人と在外日本人の孤立と排除

日本では在留外国人の数が増加している一方で、文化的な摩擦や社会参加の障壁が依然として存在する。アフリカに住む日本人もまた、孤立や差別を経験したことがあるとされる。

3.ディアスポラの社会統合・政治参加の仕組み不足

ディアスポラ(移民・海外居住者)は、社会の意思決定に関与する機会や意見を表明する場が限られており、文化的・言語的なバリアや多文化教育の不足が社会統合を妨げている。

Action

1.メディア間連携による正確な報道

日ア間のメディアで情報交換や共同取材を行い、正確で多様な情報発信を可能に。アフリカの映画や音楽、日本の漫画やアニメを多言語で発信し、互いの文化に対する理解と交流を深める。

2.ディアスポラ支援と社会統合の推進

ディアスポラ向け言語・文化教育機会の充実、自治体や企業内でワンストップ相談窓口の設置、ディアスポラの政治参加を促すためのプラットフォームの設立、多文化共生教育の義務化などを行う。

3.就労機会拡充と環境の整備

ワーキングホリデービザの導入、就労ビザ相談センターの設置、家族帯同要件の緩和、就労情報の提供およびマッチング支援の強化に加え、市民団体への資金支援を拡充し、取り組みの実効性を高める。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 9.

アフリカと日本は、相互理解と共通の責任に基づく強靱で公平なパートナーシップを築き、民間セクターからの資金協力が活発化し、TICADは政府・市民社会・民間セクターをつなぐダイナミックな共創のプラットフォームへと進化している。

Issue

1. 日本のODA予算の減少と国民関心の低下

TICAD開始当初から、日本のODA予算は半減し、日本国民の国際協力への関心・理解度も低下傾向にある。

2. 資金ギャップの拡大と ODAの限界

UNの試算によれば、SDGs達成には、約30兆ドルの資金ギャップがあるとされており、ODAだけでは賸いきれない。

3. アフリカ諸国のリーダーシップ

アフリカ諸国内においても、開発国内資源動員やガバナンス改革、民間セクターの参画促進が求められている。

Action

1. 多様な主体による共創モデルの強化

民間セクターやNGOを含む多様な主体のTICADへの参加を促進し、イノベーションや資本、地域の専門知識を活かした協働によって共創モデルを強化する。

2. 透明性向上のための評価と公開

TICAD関連の取り組みについて、3年ごとにインパクト評価を実施し、その結果を公表することで透明性と説明責任を確保し、今後のTICAD施策に反映させるサイクルを作る。

3. アフリカのリーダーシップ強化と共同事業推進

アフリカ諸国に対し、社会開発のための国家予算配分やビジネス環境・ガバナンス改革を促進するとともに、日本との積極的な共同事業をリードしていくことを求める。

社会

経済

平和

人と人との繋がり

サステナビリティ

Future

Action 10.

Issue

公正と共通の責任に基づく気候対策が行われ、開発ニーズと気候目標を両立させながら、再生可能エネルギーへの転換とネットゼロ排出を実現する。これには地球の気温上昇を2℃未満に抑え、既存の気候影響に適応し、生態系を回復することも含まれる。

Action

1.気候変動による経済・社会的損失

アフリカでは気候変動により、農業・水資源・沿岸地域が深刻な影響を受け、2050年までに年間5–15%のGDP損失が予測されている。

2.深刻な資金不足

アフリカ大陸が国別削減目標(NDC)を達成するために必要とされる2.8兆ドルのうち、確保されたのはわずか10%。適応と緩和に必要な投資が大きく不足している。

3.若者の気候変動対策への関与と技術活用の欠如

若者の政策参画や革新的な気候技術の導入が制度化されておらず、解決の担い手としての力が活かされていない。

1.気候正義と国際協調の強化

日本が歴史的責任を認識し、アフリカへの資金・技術・能力支援を拡充。TICADを通じてNDC(国別貢献)の進捗を共同評価。

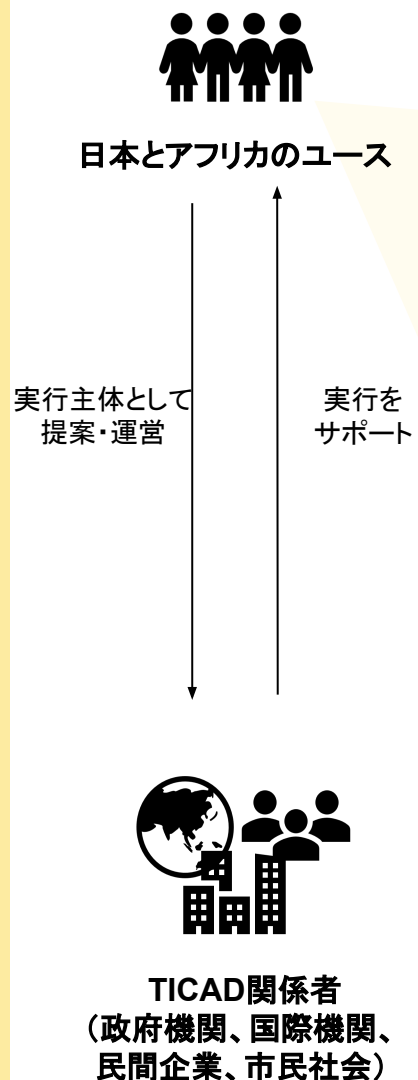
2.若者主導のグリーン変革

環境教育、起業支援、税制優遇などを通じて、気候スマート農業や再エネ分野で若者の力を引き出す。

3.研究・防災・移民政策の連携

大学間の共同研究を拡大し、気候教育と高リスク地域での啓発を強化。気候移民に関する政策枠組みも共同で整備。

Youth Agenda 2055の実現に向けた、若者自身が主導する 3つの戦略的フレームワーク



TICADプロセスへの公式な若者参画

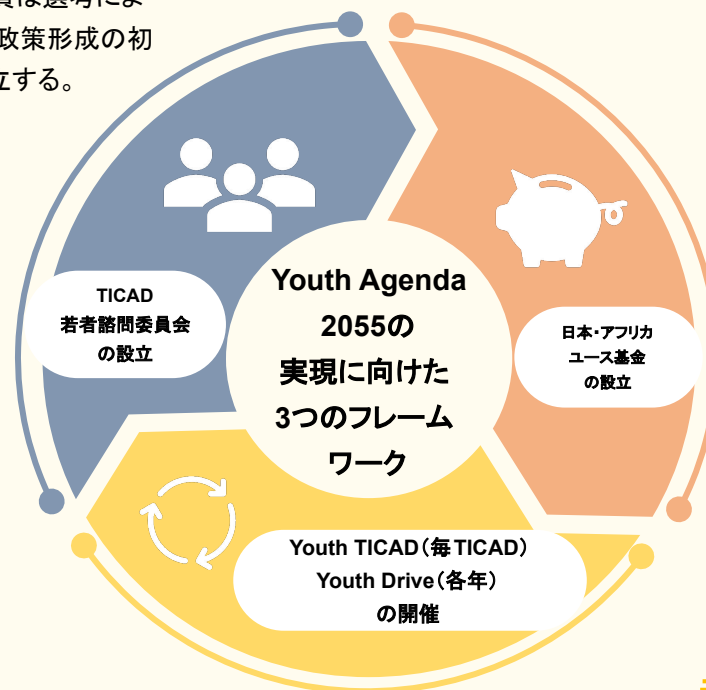
若者代表としてTICADの全プロセスに参画。委員は選考により選ばれ、多様な視点や地域性が考慮される。政策形成の初期段階から若者の声が反映される仕組みを確立する。

若者の声を取りまとめる拠点

Youth TICADやユース基金の運営に参画し、地域や分野を越えた多様な若者の声や現場の実践知を集約し、政策提言としてTICADプロセスへと反映させる。

現場知にもとづく進化

若者のアクションをさらに加速させるため、実践の現場から得られる知見や課題を定期的に議論し、必要に応じてYouth Agenda自体の内容や方向性を見直す。



共創ネットワークの構築

日本とアフリカの若者同士、また若者と他世代との間にネットワークを構築し、地域や分野を越えた連帯のもとで、新たな社会変革アクションを共創する場とする。

若者の「始めの一步」を資金援助

日本およびアフリカの若者が社会変革を目指して共創する活動に対し、「初めの一步」を踏み出すための小規模～中規模程度の資金を、返済不要の形で支援。支援を受けた若者には、得られた経験や知見を社会に積極的に還元することが求められる。

多様な主体による寄付ベースの運営モデル

若者、民間企業、政府、国際機関が連携して運営を行い、資金は主に寄付によって賄われることを想定。

アクションを加速させる仕組み

メンターシップの提供や、パートナーとの適切なマッチングなど、若者アクションを加速させるための多角的なサポートもあわせて行う。

モニタリングと知見の共有

Youth Agendaの達成に向けた取り組み(TICAD若者諮問委員会や日本・アフリカユース基金を含む)を継続的にモニタリングし、得られた知見や成果を国内外の関係者と共有することで、若者主導のアクションの可視化と学びの循環を促進する。

プロジェクトヒストリー (1)

ユースへのアンケート調査 (オンライン, 2024年2月～5月)

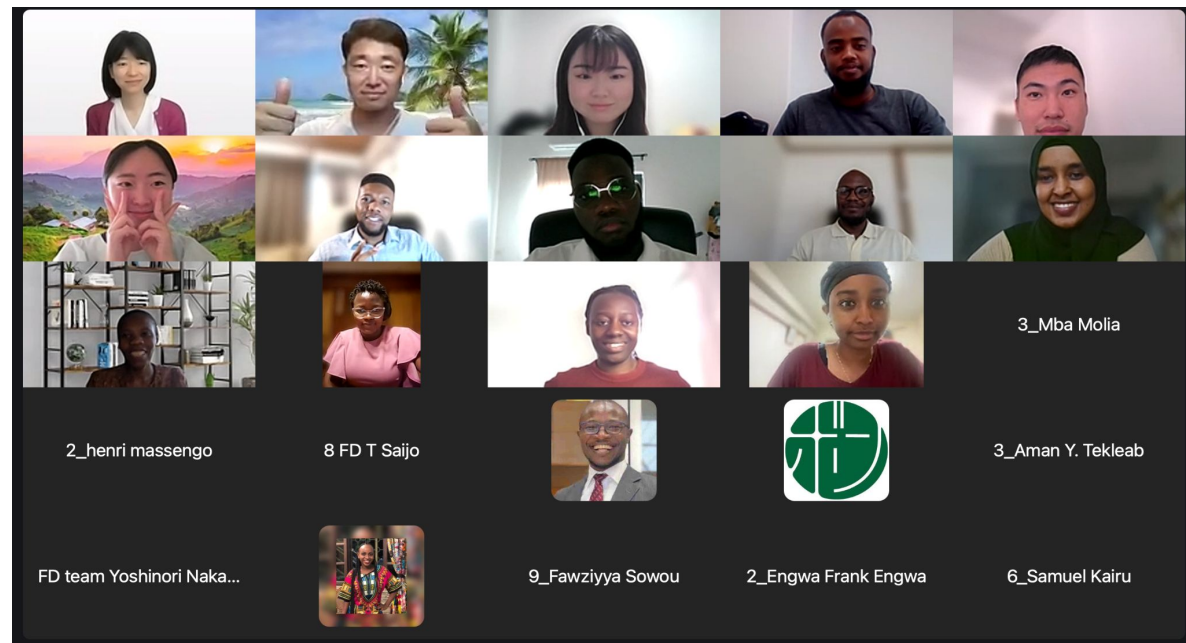


外務省との面談
(東京、2025年4月)



⇒日本とアフリカの若者の声を集める

3日間のフューチャーデザイン分科会 (オンライン, 2024年7月～8月)



⇒提言書のドラフトとなるディスカッションを実施

プロジェクトヒストリー (2)

【TICAD閣僚会合テーマ別イベント】「アフリカー日本 ユースドライブ: 私たちが望む未来の共創」(東京 2025年8月24日)



ユースと他世代間のパネルディスカッションを実施

プロジェクトヒストリー (3)

Youth TICAD 2025 プレイベント (東京 2025年2月8日)



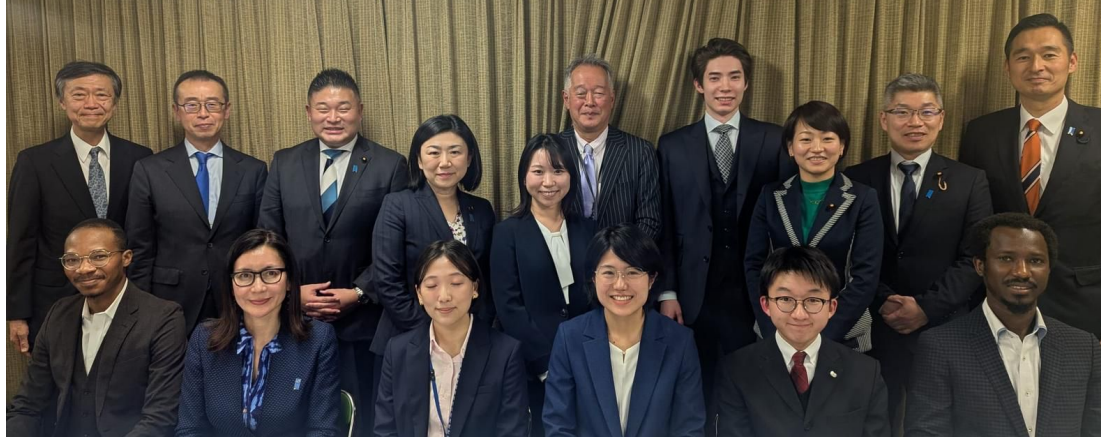
プロジェクトヒストリー (4)

第2回「アフリカー日本 ユースドライブ: 私たちが望む未来の共創」 (アディスアベバ 2025年2月)



プロジェクトヒストリー (5)関係者との対話

外務省(MOFA)、経済産業省(METI)、自民党TICADワーキンググループ、経済同友会、TICAD NGOネットワーク、国連開発計画(UNDP・コートジボワール事務所)、アフリカ連合 市民・ディアスポラ局(AU-CIDO)、エチオピア航空、国連工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所(UNIDO ITPO東京・地域アドバイザー)、国連アフリカ特別顧問室(UNOSAA)、世界銀行、アフリカ輸出入銀行(Afreximbank)など

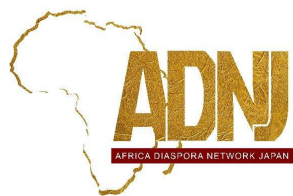


**Youth TICAD 2025 開催趣旨・全体概要
及び
当日の取材・運営に関するご説明**

運営構成

Youth TICAD実行委員会

ユースアジェンダ企画・策定



共催



What is Youth TICAD?



「Youth TICAD 2025」は、2025年 8月に横浜で開催される第9回アフリカ開発会議(TICAD9)にあわせて実施される、若者主導のサミットです。TICAD9公式パートナー事業として認定を受けているTICAD史上初の若者版アフリカ開発会議です。

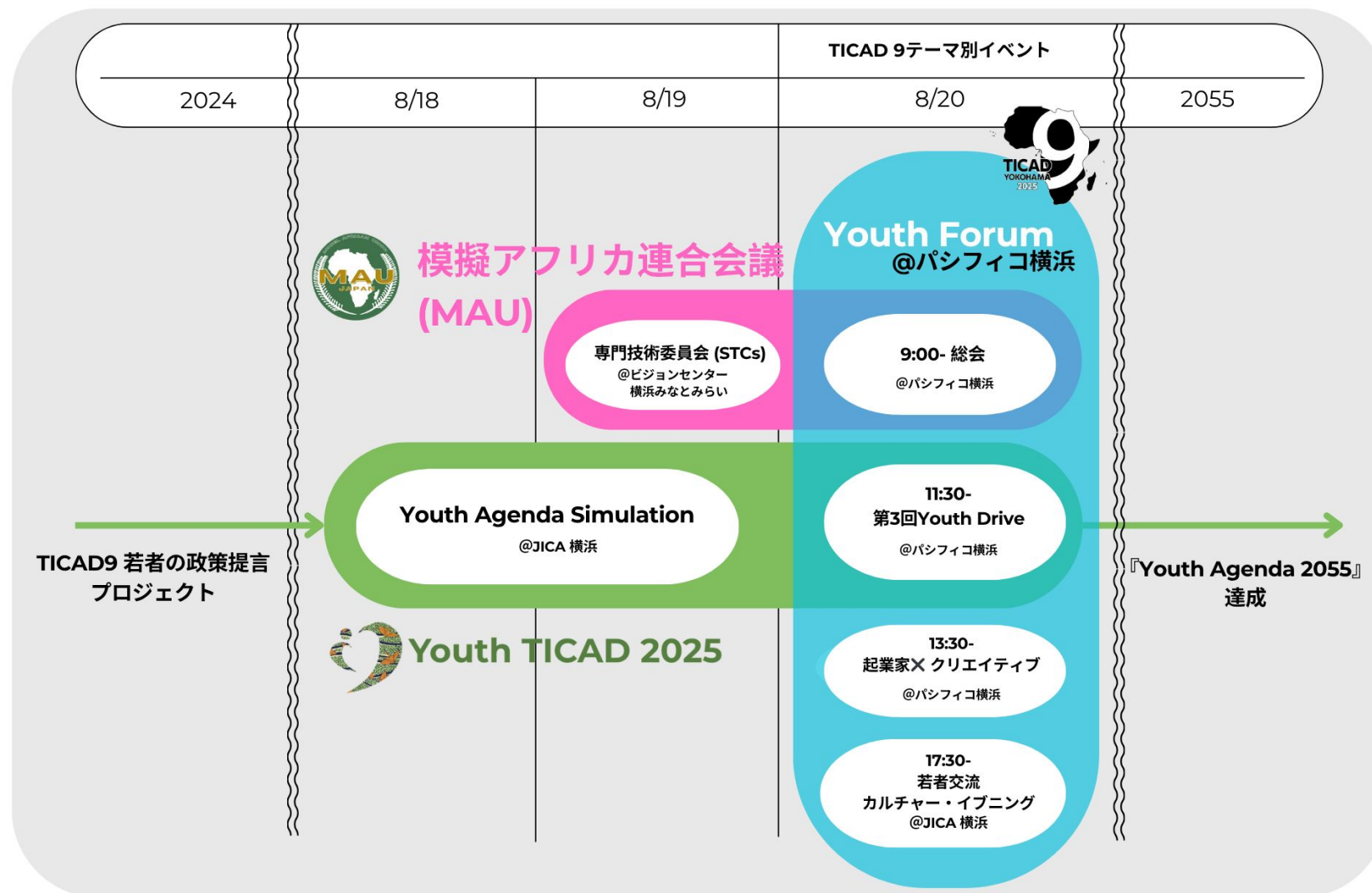
	① ユースアジェンダシミュレーション	② 第3回目ユースドライブ	③ カルチャーナイト
日時	8/18~8/19 9:30~18:30	8/20 12:00~13:20	8/20 17:00~21:00
場所	JICA横浜	パシフィコ横浜	JICA横浜
内容	Youth Agenda 2055で描かれた「私たちの望む未来」の実現に向けて、選ばれたアフリカと日本の若者 100名が協働し、具体的なアクションを共創する	Youth TICADの成果を社会に発信し、世代を超えた対話を通じて、若者の参画をどのように持続・拡大していくかを議論する	音楽やダンスなどの文化交流を通じて、若者同士の連帯を強める
参加者	日本・アフリカからの若者計 100名 (国外からの参加者 20名、国内から 50名、運営 30名。アフリカン/日本人は約半数ずつ)	若者からシニアまで多世代、アフリカと日本の若者との共創に関心がある人約 300名	Youth TICAD参加者や、元青年海外協力隊員、JICA長期研修員などに呼び掛け
形態	クローズド (募集期間終了)	オープン (近日参加登録開始)	クローズド (参加登録募集中 ~8/6)

Youth TICADスケジュール(今後変更の可能性あり)

	18 th (Mon)	19 th (Tue)	20 th (Wed)
AM	① 10:00~12:00 開会式	① 10:00~12:00 フィールドワーク	② 12:00~13:20 第3回目ユース ドライブ
PM	14:00~15:00 参加者ピッチセッション 15:00~16:00 パートナーマッチング 16:00~18:00 プロジェクト共創	~15:00 最終準備 15:00~17:00 最終プレゼン 17:00~18:00 中間振り返り	
Evening	18:00~ 中間振り返り		③ 17:00~21:00 カルチャーナイト

TICAD9における若者関連イベント

2025.07



当日の取材・運営に関するご説明

1. Youth TICAD 2025 全日程にて取材が可能です。
2. 会場のセキュリティ管理のため、後日配信予定の「取材申請フォーム」へのご記入をお願いいたします。
3. 各メディア様にて、社名入りの腕章をご持参・着用ください。(ネックストラップなどでも可)
4. 撮影・録音に関しては、登壇者・参加者のプライバシーに十分ご配慮いただき、撮影禁止区域や制限事項については当日ご案内いたします。
5. 会場内では、スタッフの指示に従ってください。